

信毎 ヤンジャ

体感 実践 SDGs

11

SDGs 17の目標

1 貧困をなくそう
2 飢餓をゼロに
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナリシップで目標を達成しよう

「『SDGs推進企業登録制度』の第一期として昨年7月に登録したミールケア(長野市)は、県内外の保育園・幼稚園・福祉施設など約400カ所に従業員が出向いて給食を作る業務を展開している。パートを含む従業員1800人の約85%が女性であるなど、ジェンダー平等を重視。給食で無洗米を使うことで水質汚染を抑制し、環境に配慮している。長野日大高校2年の中沢貴太さん(17)と、長野高校1年の谷上碧さん(16)が7日、同社を訪れて取材。農場の見学や社員との質問のやりとりなどを通じて、SDGs(持続可能な開発目標)への関心を深め、身近でできる実践について学んだ。

同社は「『考(こう)食(しょく)師(し)』と呼ぶ食育の専門家の育成、女性・高齢者を積極的に雇用するなど」「ダイバーシティー(多様性)推進、給食などでの環境に優しい米栽培も高い無洗米(全米米)の使用の3点をSDGsと連動した事業の柱と位置付けている。

考食師の育成は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」、女性らの雇用推進は5「ジェンダー平等を実現しよう」、無洗米の使用は6「安全な水とトイレを世界中に」に結び付くことを想定している。

今年4月には、社員自らが日常的に実行できることを探ろうと、各部署の代表者約10人でプロジェクトチームを結成。本年度は、各事業所の調理場や家庭での食品ロス(残食)・水道光熱費の削減、ペーパーレス化など資源の節約、家庭でも全芽米を食べるなど、に重点を置くことにした。

同社社員で管理栄養士の丸山仁美さんの3人は「おいしい食事を作

ミールケア(長野市) 給食事業巡る取り組み 長野の高校生が取材

「給食食べる人たちの反応は？」
「安心してできる」との声に手応え

高校生の2人と、人事総務部長の牧野哲雄さんとの主な質問のやりとりは次の通り。

Q 中沢さん 従業員の皆さんはSDGsの取り組みをどう受け止めていますか。
A 牧野さん 県SDGs推進企業登録への準備を通じて、普段の業務へのSDGsにつながっているのを再確認できました。従業員も給食作りなどがSDGsにつながっているのを自覚できるようになり、仕事への意欲や励みになっています。ただ、

Q 谷上さん SDGsを意識するようになり、給食を食べる人の反応はどうですか。
A 牧野さん 福祉施設などで従業員が借りている休憩室など、当社が食品ロス削減や節電などを進めていることを記したポスターを掲示しています。施設の利用者たちも目にして、SDGsに向けて取り組んでいる会社が出す食事が、安心してできるという声もいただき、手応えを感じています。

Q 中沢さん 女性従業員が多くのメリットは何ですか。
A 牧野さん 給食作りの現場で、育児体験なども生かした献立作りや素材選びができています。

Q 谷上さん 台風被害を受けた場所で本社や工場を再建するのはなぜですか。
A 牧野さん これまで会社を支えてくれた地域への恩返しだと考えています。昨今の異常気象は、SDGsも起る原因の一つです。SDGsの取り組みを大切にして、今いる場所を大切にしたいと思っています。

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
12 つくる責任 つかう責任



SDGsの取り組みについてミールケア人事総務部長の牧野哲雄さん(右)に取材する谷上碧さん(中央)と中沢貴太さん(左)＝7日、長野市穂保の同社

食べる喜び 環境改善にも

安全な食は環境につながる

長野高1年 谷上 碧さん

県NPOセンター(長野市)が進める高校生や大学生らの地域活動プログラム「ユースリーチ」に参加しています。環境問題に関心があり、9月には長野市内で友人と、気候変動への対策を訴えるプラカードを掲げながら、県庁付近などでごみ拾いをしました。今回、食を扱うミールケアと環境が、どのように結び付くのか興味を持って取材に参加しました。

同社は「給食を通して人々を健康に導くこと」を理念としており、この考えが基にな

って、安全な食、健康、環境につながっていることが分かりました。例えば、同社が給食で使っている無洗米は、食物繊維などが多く栄養があると聞きました。また、どぎ汁を出さず、河川などの水質を汚さずに済むといえます。健康を考えて食事をするのが、環境にも優しい選択になることを今まであまり意識していなかったため、生活を見直す良い機会になりました。他にも、身近なことからできるSDGsの取り組みを見つけていきたいです。

五感を使って食育を伝える

長野日大高2年 中沢 貴太さん

長野市内で高校生らの居場所づくりに取り組む団体「フォースプレイス」の代表を務めています。同市内の高校生・大学生約20人が参加しています。今回の取材で、ミールケアがSDGsと結び付けて行っている食育の伝え方に興味を持ちました。

同社では専門知識を学んだ「考食師」の社員が講師になって、保育園や幼稚園などで食育教室を開いています。取材に訪れた日に、オンラインで考食師になるための研修がありました。食べ物の知識だ

けでなく、小さな子どもにどう楽しく、分かりやすく教えるかという点に重点が置かれていたのが印象的でした。また、社員が劇団を作って、演劇で食の大切さを伝える活動をしたり、自社農場で田植えなどのイベントをしたりしていると聞きました。

教わる側の立場に立つことや、五感を使った、全員参加型の場作りが大切だと思いました。SDGsを学ぶことが、コミュニケーションについて考えることにもつながると気づきました。

SDGs 誰一人取り残されることなく、この地球で幸せに暮らし続けるにはどうすればよいかを定めた国際的な目標。英語の Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。17の目標と、目標達成への具体策を示した169のターゲットで構成する。2015年に国連で採択され、30年までの達成を目指している。法的拘束力はないが、国連に加盟する193カ国全てが取り組む必要があるとしている。

来年3月に効果を検証し、今後を生かす方針。人事総務部長の牧野哲雄さん(45)は「社内の愛国気持ちは進んでいるが、SDGsの取り組みは緒に就いたばかり。残食の量などの数値を点検して、実効性を高めたい」と話す。

同社は昨年10月の台風19号で、本社やパン工場、直営レストランなどが高さ3層まで浸水する被害を受けた。本社や工場を新築・改築し、来春の稼働を目指す。防災と憩いの場の創出を兼ね、本社周辺の約3分の敷地を盛り土で囲み、約7000本の木を植える計画も進める。牧野さんは「地域にとっても、災害から命を守る森になることを期待している。復興を会社や地域の持続可能性を高める契機にしたい」と話している。